

# 小学3年1組 図画工作科学習指導案

指導者 三 桐 撰 夫

空き箱やマジックテープなどを用いて夢のあるロボットを工作で表す活動において、着け外しなどにより形が変化するなどの性質に視点を当てて、作品のよさや改善点について学び合う場面を設定したことは、発想や構想を深めたり広げたりし、表現意欲を高めて造形表現を追求することに有効であったか。

## 1 題 材 名 はって、はがして、変身ロボット

## 2 題材のねらい

夢のあるロボットをつくる活動において、組み合わせたり組み替えたりできる面白さや、製作物と自分の願いとの関わりから表現方法の魅力に気づき、発想や構想を広げたり深めたりしながら、感性を働かせて造形表現を追求することができる。

## 3 授業の構想

(1) 次の文章は、「わりばしアートをつくろう」3、4時間目の学習活動後の日記である。

今日、図工をしました。今日は、色のわりばしをつかって、ふつうのわりばしもつかって、いえを作りました。ぼくは、いえを作るのはむずかしかったけど、やねはどうやって作るんだろうとか、どうやってかいだんを作るのかをくふうしたら、本当にかいだんとかが作れました。ぼくは作れてとてもとてもうれしかったし、楽しかったです。(児童A)

児童Aは、階段や屋根を表すためのわりばしの積み方を工夫して、表したいことにせまろうとしている。具体的には、色のついたわりばしをどこに使うと有効かを考えながら、作りかえたり、作り直したりしながら表したいことを追求しようとする姿が見られた。このように、本学級の子どもたちは、感性を働かせながら表現テーマや素材などの対象と好奇心旺盛に向き合い、体験したことをいかして自由に試行錯誤を重ね、自分の考えや友だちの取組の様子を取り入れながら、表したいことを追求することができる。

(2) 本題材では、空き箱を組み合わせた形から見立てながら、夢を叶えたり人の役に立ったりするロボットを「夢のあるロボット」としてつくる活動を行う。マジックテープなどを用いることで、形の組み替えやパーツを着け外しが可能になり、形の変化や動きを取り入れた工夫が期待できる。箱と箱を完全に固定せずにつなげることができるので、ポーズを変えたり、着せ替えのように着け外しをしたりできる。また、紙素材の空き箱は子どもの自由な発想に応じた加工が可能であるため、つくり方を試すことも十分に味わえる。試行錯誤しながら自分や友だちがつくりたいものを明らかにしていくことを通して、見直す姿や新たな発想を獲得する姿が期待できる。作り込み、作り替えながら、友だちと一緒に空想の世界を楽しんで表したいことを追求することができる。

このような活動を通して、友だちとかかわり合い、多様な考え方や見方や表し方を共有することで工作に表す活動や鑑賞についての感性が高まる。そして、教師のはたらきかけに伴い、自分が表したいことや表そうとしていることについての問いをもち、また、問いと向き合うことで、自分自身の製作意図が次第に明らかになる。これにより、造形活動に対する意欲が高まり、表したいことに向かって熱心につくろうとする姿、すなわち、追求する姿を引き出すことができると考える。

本学校園図画工作・美術科として願う豊かな学びの姿の一つに、「表現テーマに向かって願いをもち、

自己の造形表現を高める姿」がある。そこで、子どもが自分や他者の学び方・表し方のよさを肯定的に認め合う姿、確かな願いをもちながら発想や構想を見つめ直し、工夫を重ねて、より豊かな表し方にせまろうとする姿を大切にしていきたい。

- (3) 本題材は、第3・4学年の目標(2)、内容A表現(2)、B鑑賞(1)に即している。A表現(2)については、題材やその指導方法において見直し、多様な素材に出会えるようにしたり、自分の感覚や活動を通して形や色などの感じをとらえるようにしたりする。用具や素材の使い方について、技術的な判断を繰り返す子どもの姿を大切にしたい。

導入時に表現方法に出会うと共に、組み合わせた形の見立てからつくりたいものを発想したり、形の変化をもとに空想を楽しみながら表現テーマを見いだしたりする。例えば、レスキューロボットのパーツを組み替えると、救助する機能が変化するなどのように、組み替えて変化する形から表したいことを見付け、「人を助けたい」などの願いを明らかにしながら主題をつかむことを、この1次の活動では大切にする。

2次から3次では、表したい自分の「夢のロボット」について製作を進める中で、箱の組み合わせを工夫したり、箱の加工方法を工夫することで動きや形の変化の面白さを見付け出したりする。箱以外の素材に注目することや、遊びを通じた気付きから新たな発想を獲得していくことで、楽しみながら製作のイメージや見通しをもち、つくりたいものや表したいことへの発想を広げたり、深めたりする。表したいことや願いについて、どのようにすれば形として成立するか、自分がつくりたいものは本当にこれでいいのかという問いをもつことで、自ら課題を見付け、願いをもってその解決に向かおうと試行錯誤する。

つくったものを見合ったり、つくったものを交換して試したりすることで、自然と仲間と関わり合いながら作品を味わい、よりよい表現について考えを交わし合うことができる。

本時は、第3次、9時間目である。つくり込まれたロボットのイメージを仲間と共有したり、他者の感じ方の違いから新しい表現の可能性を見付けたり、自分の表現のよさを再認識したりする活動を行う。作品の完成に向け、よりよい表現の工夫を求めて、変化する形や動きの効果のよさに気付き、表現の工夫として取り入れようとする子どもの取り組みを認める。また、色や形がどうありたいのかを意識できるようにする。

教師は、子どもが自分の考えと向き合う場面や子ども同士でかかわり合う場面においては、どのように感じたのか、考えのもとになった根拠はどこにあるのかなどを明らかにするための掘り下げはたらきかけを行う。また、問いや願いについて、どのようにしたいのか、どんなことができそうかなどを見付け出すための提案するはたらきかけを行う。自分や友だちの表し方やその意図を十分にとらえることができれば、作品を通して、必要感をもって仲間と関わろうとする姿が期待できる。

ふりかえりの場では、ワークシートを用いて、自分の考えを確認したり新たな構想をつかんだりできるようにすることで、「もっとよくしたい」「今度はこんな工夫や活動をしたい」という願いを強くもち、高い意欲を保ちながら造形表現を追求する子どもの姿が期待できる。

#### 4 展開計画（全11時間 本時9／11）

次	主な学習	時	具体的な学習・内容
1	・つないだ箱のおもしろさを見つけよう。	1・2	・つないだ箱をロボットや動物などに見立てたり、着け外しが可能であることに着目したりすることで、表現方法の魅力を味わう。 ・箱を組み合わせて表したいことを考えたり、どのように作るかを構想したりする。
2	・夢のロボットをつくらう。	3～8	・表したいことを見付け、材料や作り方をいかして作品をつくる。 ・表したいこととつくっているものとのつながりを意識しながら、組み合わせや組み替えの面白さや表し方のよさを見付け出す。

3	・作品をよくする工夫をしよう。	⑨・10	・作品のよさや面白さについて、色や形、動きや形の変化との関わりから、感じたり発想したりしたことを言葉で伝え合う。 ・自分の意図や考えと友だちの見解を比較しながら、形の変化や動きの面白さを見付け出し、発想を広げながら自分の表し方の参考にする。
4	・作品を味わおう。	11	・完成した作品を見たり、作品で遊んだりしながら、表現のよさを味わい楽しむ。

## 5 本時の学習

### (1) ねらい

- ・自分や友だちの作品を見たり表したいことに共感したりすることで感じたことを伝え合い、感じ方の違いや互いの表し方の特徴やよさに気付くことで、新たな発想を獲得したり見直しを図ったりしながら自分の作品に取り入れることができる。

### (2) 展開

学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い・評価
1. 前時を振り返り、学習の見通しをもつ。 2. 自分や友だちの作品を見たり、お互いの作品で遊んだりしてみたことから、面白さやよさや改善点を伝え合う。	・製作の終盤に向けての意図や考えを、ふりかえりを用いて確認し活動の方針を明らかにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             自分や友だちのロボットのこだわりポイントを見つけて、もっとよくなる工夫を考えて作ろう。           </div>	
・うでを付け替えると技が増えるよ。色を変えたらもっと分かりやすくなるよ。 ・友だちのロボットと合体できるよ。そうしたら新しい部品を思いついたよ。 ・箱の中に小物が入られるアイデアがいいよ。やってみたくなったよ。 ・腕が曲がるようにするにはどうしたらいいかな。友だちに教えてもらおうよ。  3. 新しい発見・工夫点・改善点をいかしてつくる。 ・マジックテープを付け加えると部品を着けるところが増えたよ。 ・水に浮くようにしたいな。試してみたらペットボトルもつなげることができたよ。  4. 本時を振り返る。 ・友だちのロボットの部品を見たら、箱が伸びる仕組みになっていたよ。うでを伸ばしたかったから、よいヒントを見付けたよ。	・自分なりにとらえた作品の面白さやそのよさの具体的な説明について、根拠や理由を伴う意見のよさを認める。 ・子どもの願いや必要感に応じながら意見交換をする機会を提供し、学級全体に広げたり、個の追求に返したりする。 ・部分的にあるいは全体的に作品をとらえ、願いと作り方のつながりを意識できるように問いかけることで、作品の形や工夫された動きの特徴に気付くようにする。 ・理由や根拠を問い返しながら、意図や考えを明らかにするように促す。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             評価の観点（創造的な技能）               自分や友だちの作品を見たり作品で遊んだりすることで感じたことを伝え合い、感じ方の違いや互いの表し方の特徴やよさに気付くことで、新たな発想を獲得したり見直しを図ったりしながら自分の作品に取り入れることができる。              【評価方法 作品・発言・ワークシート】  <b>支援</b>              願いとのつながりを意識できるようにしたり、友だちの作品の形のよさや動きの面白さに注目し、参考にするように促したりする。           </div>	
・技能的な支援は積極的に行う。 ・製作過程を画像として記録に残しながら、子ども自らが学びを振り返り、表現の広がりや素材についての考え方の変化について意識できるようにする。	

### (3) 本時で目指す子どもの姿

- ◎友だちのこだわりのある工夫を見付けながら、その面白さやよさをいかすように見直したり、自分の願いに沿った工夫を考え出したりして、よりよいものをつくろうとしている姿